

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年8月6日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870102563		
法人名	株式会社 イディア・コーポレーション		
事業所名	ケアホーム きらり	ユニット名	
所在地	〒311-4152 茨城県水戸市河和田1-2444-2		
自己評価作成日	平成27年1月6日	評価結果 市町村受理日	平成27年8月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870102563-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年2月13日	評価機関 決済日	平成27年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームの利用者だけでなく隣接の介護サービスを利用している方とも自由に交流できるように援助している。行事等、合同で行っており利用者様に楽しんでもらえるよう努力している。グループホームだけの閉じられた中にだけとどまることなく屋外への散歩・外出など積極的に行うようにしている。利用者様とのコミュニケーションの時間を充分にとり利用者様の状況の把握と楽しみなどへの支援を十分行えるように努力している。ご家族様へも毎月、利用者様のご様子と施設の近況をお伝えしている。ご家族様からはとても好評をいただいている。運営推進会議へ地域の民生委員の方をできるだけ多く参加してもらえるよう努力している。会議の中でいろいろなご意見や、こちらから情報の発信として最近の介護を取り巻く事情などをお伝えするようにしている。運営推進会議へは管理者、計画作成担当者のほかに必ず他職員も参加するようにしており、推進会議の参加者様にも職員にとっても地域の中での位置づけと役割について考えられる良い機会となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、同一法人が運営する短期入所生活介護事業所と、通所介護事業所が共用部分を棟続きとして併設しており、定員6名の1ユニットで家族的な雰囲気となっている。
職員は併設事業所の職員ともコミュニケーションを図り、家庭的な雰囲気の中で利用者が穏やかな生活が送れるよう支援している。
菖蒲湯や柚子湯のほかに、桃やびわ、大根の葉、ヨモギ、沈丁花湯など、季節に合わせた入浴を毎月計画的に実施し、利用者が入浴が楽しみなものとなるよう工夫をしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分や自分の家族が利用したいと思う施設にするために職員は入居者様個人個人の希望を尊重し十分に健康管理をさせていただき、できる限り外出等を行いながら毎日を楽しく過ごせるよう援助する また明るい雰囲気や清潔・整理整頓ができ、ご家族の相談にもものれる、笑顔あふれる施設作りに皆で努力する	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、事務室及び玄関に掲示している。 管理者と職員は、毎月のフロア一会議で理念について話し合い、利用者が穏やかな生活が送れるよう実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会・老人会などへの出来ていないが、民生委員の皆様のお力を借りながら施設での行事の際など交流を図っている	利用者は散歩時に近隣住民と挨拶を交わしている。 法人主催の夏祭りでは、地域住民にチラシを配布して招待するとともに、地域住民も夏祭りに出店し、交流している。 シルバーリハビリ体操や絵手紙のボランティアが、それぞれ月2回来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へなるべく多くの地域代表の方に参加をお願いし、その中で施設で相談を受けられること、出張し介護制度のご説明や、出来ることなどをお話している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に外部評価の内容・結果の紹介など積極的に行っている また外部評価委員会の活動報告などを通してご意見などいただいている	運営推進会議は市職員や市社会福祉協議会支部職員、民生委員等の参加を得て2ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。 会議では事業所の現状や運営状況のほか、入居者状況の報告を行うとともに、毎回事例検討やノロウィルス、嚥下障害、肺炎など、時期に合ったテーマを取り上げて報告し、質疑応答や意見交換をするとともに、委員から知人の入居者紹介があるなど、双方向の意見を出し合っ、サービスの質の向上につなげている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて市担当者へ相談などお願ひし、行き来をする機会を持つようになっている	市担当者は毎回運営推進会議に出席しているほか、管理者は市へ出向き、各種書類の届け出やケアプラン作成についての相談をしたり、市主催の研修会参加の際に市担当者とのコミュニケーションを図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束解除検討委員会を設置し、身体拘束に対する理解のために努力しており、身体拘束が必要な場合には、グループホームスタッフはもとより他の部署のスタッフとも相談しながら解除に向けて検討するようにしている	身体拘束廃止委員会を設け、身体拘束についての話し合いをしている。 ベッドから転倒する危険がある利用者に対し、家族等の承諾を得て4点柵を使用しているが、経過観察記録等を作成したり、身体拘束に関する職員研修を実施するまでには至っていない。 日中は玄関の鍵を解錠し、職員で見守りを行っている。	やむを得ず身体拘束を行う利用者に対しては「同意書」のほか、「経過観察記録」と「再検討記録」を作成し、記録することを期待する。 職員が身体拘束の内容と弊害を正しく理解し、身体拘束をしないケアのための内部研修を開催するなど、身体拘束をしないケアに向けた取り組みを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については学習機会を持ち、職員に十分な理解をしてもらえよう努力しているが、現状は十分と言える状況ではない		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を職員に配布し確認してもらっているが十分と言える状況ではない。制度の理解をさらに深め正しい対応が出来るよう研修会などを行っていききたい		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時の契約などは十分に時間をかけ、利用者及びご家族の不安がないよう対応している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応処遇改善委員会を設置し利用者及びご家族の意見を反映し、必要に応じ対応などを変更していけるよう努力している	管理者と職員は、利用者からは日常のふれ合いの中から、家族等からは来訪時に意見や要望を聴く機会を設けており、帰宅願望の強い利用者の外出や外食は家族等と協力して支援している。 前回まで実施していた無記名の家族アンケートを継続するまでには至っていない。	家族等の率直な意見や要望を汲みあげるよう職員で話し合うとともに、無記名の家族アンケートを年1回程度実施し、出た意見等を運営に反映させることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議で職員の意見や提案を聞けるようにしており、出た意見は管理者が福祉事業部運営会議へ出席した際に発言報告するようにしている	管理者は日々の業務中及び毎月開催するフロア会議や全体会議、「意見ノート」などで、職員から意見等を聞く機会を設けている。 利用者の食事形態や入浴介助の方法、おむつ交換について、勤務シフトの希望のほか、「事務室にスチールラックを購入しては」との提案を受け、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設開設者による面談などにより行っている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会や講習会への参加を支援し施設内研修の実施などでスキルアップの要望に込えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内グループホーム協議会への参加などを通して交流の機会を確保できるよう努力している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成責任者によって事前の面談など十分に行えるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談時や施設の見学訪問時、事前の自宅訪問などを行うことで信頼関係が築けるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネジャーとの連携や同法人内で行っている各種介護サービスの活用など、必要に応じて相談にのれるよう努力している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に同じ目線に立ち、会話・対応するようにしている 日常の施設生活などではもちろんのこと、行事などの活動についても一緒に作っていくという意識を持っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段からご家族に面会時やお電話で不安な点、心配な点は無いか話をするようにしている ご家族とご本人が不安に思っていることは無いかを近況を伝えながら話し合えるように努力している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限などがどうかか入居時に確認の上でだが、基本的には制限しないように相談をすすめている 面会時間などについても制限しないようにすることで、知人・友人・親戚の方々との面会をできる限り可能なように努力している	利用者の家族等や親戚の来訪があるほか、併設する短期入所生活介護事業所を利用している知人と自由に交流が出来るよう支援している。 家族等に連絡をして利用者が馴染みの理・美容室に行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションが職員とのコミュニケーション以上に重要で有効であることを意識しているため、職員が必要に応じて間に入りスムーズなコミュニケーションがとれるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談や来訪を受け入れるようにしている 必要であれば訪問して相談にも乗れるようにしており、他のサービスが必要な場合にはサービスの紹介を行って支援している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人の利用者にコミュニケーションをとれる時間を作り、それぞれの意向・希望・嗜好などを把握できるように努力している	職員は利用者の日々の行動や会話、表情などから利用者の思いや意向の把握に努めている。 意思疎通が困難な利用者には、キーパーソンとなる家族等から話を聞いて把握するよう努めている。 把握した思いや意向をケア記録に記載しているが、記載内容が記録の中に埋もれて全職員で共有するまでには至っていない。	把握した思いや意向を全職員がいつでも確認し、共有出来るよう記録や記載方法の工夫を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後にご家族などから、お話を聞けるように努力している サービス利用経過についてはケアマネジャーとの連携などで行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサインはもとより、表情・発言・態度などが普段の様子と少しでも違った場合や、それぞれの持っている病気などによる違いなど観察できるように職員全員で取り組んでいる		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時にはご家族とご本人の意向をよく聞き、課題・ケア内容を考え計画をたてるようにしている 入居後もご本人の様子をご家族に詳しく伝え相談しながら介護計画をたてている	介護計画は計画作成担当者が利用者や家族等の意見や希望を聴き、職員と話し合って作成するとともに、定期的に見直しをしている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直しをしているが、見直しに際してモニタリングの実施や評価の結果を記録として残すまでには至っていない。	介護計画の見直しに際しては、モニタリングを実施するとともに、評価の結果を記録として残すことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録のほかに、バイタル表・排泄チェック表・水分と食事量チェック表などを活用し、情報の共有とケアプランへの反映に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や気分によって関係施設のショートステイやデイサービスに遊びに行くなどしている。ご家族の都合などとの相談によるが、ご家族との外出・外泊なども勧めるようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで絵手紙などを行っている。他に近隣の保育園の園児の訪問などの受け入れを行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及びご家族の希望するかかりつけ医に受診してもらえるように支援しているが、定期的な往診も協力医にお願いしている。必要に応じて職員の付き添いも行うが主治医との面談は出来る限りご家族にお願いしている	利用契約時に利用者や家族等が希望するかかりつけ医を利用申込書で確認している。協力医療機関の医師による月1回の往診結果は、その都度電話で家族等に報告している。家族等が受診に付き添う場合は、利用者の健康状態を記したメモを渡して説明し、受診後は家族等から手書き文書などで報告を受け、申し送りノートに記載して職員で受診情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内の他部署の看護師との連携を図り、対応できる体制をとっている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合には病院の主治医・担当看護師・相談員との連携、情報交換を行い帰所に向けて取り組んでいる。また、入院中の訪問も行い直接主治医と面談を行ったり退院後の注意事項などの確認を行っている	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医への協力の依頼など行いながら適切な援助について相談をしながら進めるようにしている。ご本人・ご家族の意向の確認を頻繁に行い、職員同士もその内容の理解と共有に努力している	利用者の状態が急変及び重度化した場合について、事業所では医療的環境が整っていないため、対応は不可能であることを契約時に説明し、同意を得ている。 過去に医療機関のバックアップ体制が整った事例で看取りを実施した経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応についてはマニュアル化しているが十分とは言えない。今後は応急処置の研修等を定期的に行っていく	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議などを通じて地域の方には協力をお願いしている。定期的に避難訓練を行い、利用者も参加して頂いている	前回の外部評価以後、1回避難訓練を実施し記録を作成するとともに、反省点を話し合っているが、1年に2回及び夜間を想定した訓練を実施するまでには至っていない。 災害時における地域住民との協力体制についても、前回の外部評価結果と同様に築くまでには至っていない。 災害に備え米や乾パン、飲料水、布団等のリネン品などを備蓄しているが、それらを一覧表を作成して管理するまでには至っていない。	避難訓練は年2回以上行うとともに、夜間を想定した訓練の実施を期待する。 地域との協力体制の構築について運営推進会議等で話し合うことを期待する。 災害に備えた備蓄品は、消費期限等を記載した一覧表を作成して管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや対応方法については常に注意を払っている 個人情報の管理については、施設外持ち出し禁止はもちろん、職員に意識付けを徹底するように努力している	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、トイレや入浴誘導時には誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。個人情報の書類は事務室の鍵のかかるロッカーに保管し情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれにあった声かけや対応を心がけ、説明の仕方もそれぞれに合わせて行い本人が希望や思いを言ったり決めたり出来るように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれのペースで行えるよう支援している 食事の時間以外は基本的に起床時間も消灯時間も決めておらず、その他の時間も押し付けることのないようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回以上、理容サービスを行いご本人やご家族の希望で行っている 起床時の整容等も声かけ介助している 衣類等、一緒に買い物に行き選んでいただくなどの支援をしている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳下膳は一緒にできない状況である ご本人・ご家族様に話しを聞きながら、時には好物のものをそれぞれに配膳することもある	献立は利用者の嗜好や状態を考慮して、職員で相談しながら作成している。 利用者は食器拭きや布巾の洗濯たたみなど、できる範囲で職員と一緒にしている。 誕生会や季節の行事食、手作りのケーキやクレープなどのおやつ、外食などは利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の変更や飲み物の変更、必要に応じ栄養補助食品の活用などを行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけ、援助を行っている 必要な際は歯科医の往診を受けていただいている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを把握し適切に誘導、声かけを行っている 必要に応じ排泄介助を行っている	職員は排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握するとともに、時間を見計らって声かけや誘導をしてトイレで排泄ができるよう支援をしている。 利用者や家族等の希望により、居室にポータブルトイレを置いて夜間利用し、排泄の自立に向けた支援をしているほか、利用者に合ったおむつやパッドについてフロアー会議で話し合い、それらの使用減につなげている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックを行い必要に応じた服薬の援助をしている また、水分補給や健康食品等での対応をしたり、散歩にでかけたりの運動も取り入れている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	状況に合わせた入浴が出来るようにしている また入浴委員会を設置し、より良い入浴のための話し合いをしている 季節ごとに香り湯なども楽しんでいただいている	入浴は週2回を基本とし、利用者の希望にそって午前でも午後でも入れるよう支援している。 入浴を拒む利用者には、声かけする時間や職員を替えるなど、工夫して入浴ができるよう支援している。 季節に合わせた菖蒲湯や柚子湯のほか、桃やびわ、大根の葉、ヨモギや沈丁花湯などを毎月計画的に実施し、利用者の入浴が楽しみなものとなるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中はレクリエーションや散歩などで楽しく起きていてもらえるよう支援している 本人の希望や体調の状況により対応を変えている 起床、消灯の時間は設定しない(強制はしない)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を用い、服薬内容を職員全員で把握するよう努めている 薬の副作用についても観察し変化などに対応できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や興味のあることへの取り組みを支援できるように努力している 施設内での調理や配膳、清掃など役割分担も行っているが、現状はなかなか難しくもっとそれぞれに何か取り組めるようにしたいと思っている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候などによって施設外への散歩やドライブ等、市内の行楽地へも出かけている。特に桜や紅葉の時期などは積極的に外出するようにしている	天気の良い日は利用者の体調に配慮しながら散歩や外気浴を行ったり、コンビニエンスストアに買い物に行っている。 年間外出計画を立てて大塚池や千波湖など、普段行けないような行楽地やドライブに出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が自分で持っていたいという方は紛失・盗難の可能性をご家族に説明した上で相応の金額で持たせていただくようにしている。それ以外の方は職員が預かり、出納帳にて管理し、買い物の際などに使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話は本人に繋げるようにしており、また本人から電話をかけたいとの要望があればかける手伝いをしている。また、本人からご家族様への年賀状作成のお手伝いをしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外部からの騒音等はなく、日中は外部の光を取り入れ明るくなるように配慮している。冬はコタツを置くなど季節感にも配慮している	広く明るい居間兼食堂は併設する短期入所生活介護事業所と通所介護事業所を自由に行き来が出来る共用空間になっている。 小上がりの畳敷きスペースには雛人形や七夕飾り、クリスマス飾りなど、利用者が季節を感じる事ができよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペース的な制限があり、共有空間に個別に集まれるスペースをつくるのが十分に出来ているとは言えない。ソファを置く等の対応はしているが十分だとは思っていない	/	/
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持込物品の制限は特別に行っていない。ご家族様が持参される本人の好きな花や絵、写真など飾ったりして居心地がよくなるよう支援している	居室にはベッドやクローゼット、エアコン、カーテンを備え付けている。 利用者は家族等と相談し、使い慣れた寝具類や目覚まし時計、ぬいぐるみ、ラジオカセットなどを居室に持ち込むとともに、家族等の写真やカレンダー、手作り作品などを飾り、居心地よく暮らせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には廊下の全面に手すりを設置し安全に歩行などが出来るように配慮している。浴室やトイレ内も同様に手すりを設置している。また、障害物を置かないようにも注意している	/	/

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 ケアホームきらり

作成日 平成27年8月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災や地震、水害等の災害時に昼夜を問わず利用者が避難できるよう全職員で年2回の避難訓練を行う必要があるが実施できていない	火災や地震、水害等の災害時に備えて年2回の避難訓練を行う	運営推進会議等を通じて地域の方々の協力を得て災害等を想定した避難訓練を夜間を含め年2回実施する また引き続き災害に備えて事業所独自に冷凍野菜、肉、飲料水、菓子等備蓄する	一年間
2	2	事業所と地域との付き合いが無く利用者が地域とつながりながら暮らしていない	地域密着型サービスの意義を踏まえ地域の自治会、老人会などへの交流を図る	夏祭り等の事業所の行事に近隣住民を招待し交流を図るとともに資源ゴミ回収の手伝い等を通じて事業所が地域の一員としての役割を果たしていく	六ヶ月
3	10	意見箱等の設置をしたが反映まで至っていない	要望や意見を取りまとめて運営に反映していく	無記名アンケートを年1回程度家族へ実施し、出た意見等を運営に反映させていく	一年間
4	6	経過観察記録等を作成したり身体拘束に関する職員研修を実施するまでには至っていない	身体拘束の内容と弊害を正しく理解し、身体拘束をしないケアに向けた取組みを行う	身体拘束を行う利用者に同意書のほか経過観察記録と再検討記録を記録する。また職員研修の実施、解除に向けた検討を行う	六ヶ月
5	4	運営推進会議での評価への取組み状況等についてサービス向上に活かしていない	運営推進会議を活かし、貴重なご意見をサービス向上に活かしていく	運営推進会議の議事録を文章化し、ご家族へお送りする 運営推進会議には利用者の家族に参加して頂き、利用者側の意見を頂く	実施済み

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。